

SUBARU REPORT

86th 報告書 2016.4.1 ▶ 2017.3.31



特集

1. New SUBARU XV
2. アイサイト・ツーリングアシスト



株主の皆様へ

株主の皆様には平素よりご高配を賜り厚く御礼申し上げます。ここに第86期(2016年度)の報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

私たちSUBARUは、これまで長年にわたって良い「モノ」をつくる努力を続けてきました。そして近年は、モノに加えてお客様にどのような「価値」をお届けできるかを考え、「安心と愉しさ」という表現でお客様に価値をお届けする活動に注力してきました。いま、世界中でSUBARUへのご支持が広がっており、私たちは着実に成長していると感じています。

今回の社名変更は、私たちSUBARUが「これからは価値を提供するブランドとして生きていく」という決意表明です。お客様にSUBARUならではの価値を提供していく“付加価値経営”をさらに高いステージで進め、自動車と航空宇宙事業における魅力あるグローバルブランドとして成長していきます。

当社は、「“お客様第一”を基軸に『存在感と魅力ある企業』を目指す」という経営理念のもと、中期経営ビジョン「際立とう2020」で掲げる「大きくはないが強い特徴を持ち質の高い企業」に向けて持続的成長を実現すると共に、企業市民としての責任を果たし、世界各国の地域社会から親しまれる存在を目指してまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2017年6月

代表取締役社長

吉永泰之



業績の概況・財務ハイライト

業績の概況

当社の重点市場の北米市場が前期に引き続き世界販売を牽引し、自動車売上台数は当社として初の100万台超えを記録しました。

売上高は、自動車売上台数の増加などにより、為替変動に伴う売上高の減少を吸収し、前期比2.9%増の3兆3,260億円となり、5期連続で過去最高となりました。

利益面につきましては、エアバッグインフレーターに起因する品質関連費用および米国の金利上昇に伴う販売費を中心とした諸経費等の増加、為替変動の影響、試験研究費の増加により、営業利益が前期比27.4%減の4,108億円、経常利益が前期比31.7%減の3,943億円、親会社株主に帰属する当期純利益が前期比35.3%減の2,824億円となりました。

連結財務ハイライト (2016年4月1日～2017年3月31日)

売上高

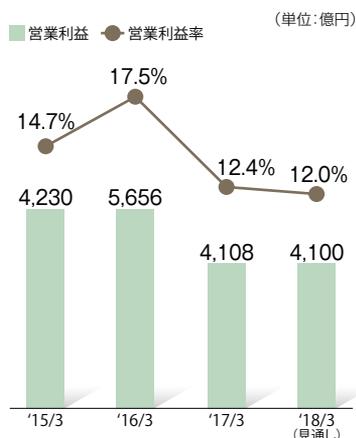
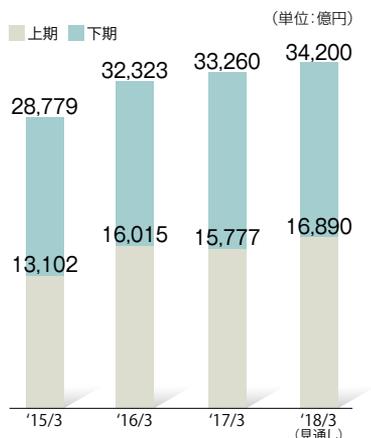
3兆 3,260億円
前期比 2.9% 増↑

営業利益

4,108億円
前期比 27.4% 減↓

親会社株主に帰属する当期純利益

2,824億円
前期比 35.3% 減↓



セグメント別業績報告

自動車事業部門

売上台数

106.5万台

前期比 11.1% 増

国内では2016-2017日本カー・オブ・ザ・イヤーを受賞した新型「インプレッサ」、海外では北米を中心に「アウトバック」が販売を牽引。売上台数は、国内で前期比9.4%増の15.9万台、北米で前期比14.3%増の72.1万台、その他の海外地域を含めた全世界の売上台数は、前期比11.1%増加の106.5万台となり、5期連続で過去最高となりました。

売上高

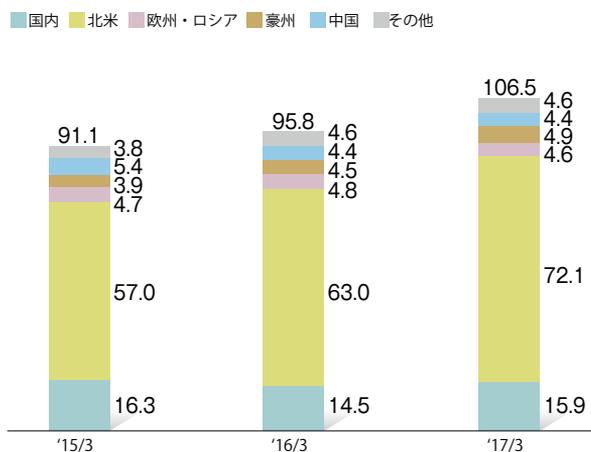
3兆1,520億円

前期比 3.7% 増

売上高は前期比3.7%増の3兆1,520億円となりました。セグメント利益は、エアバッグインフレータに起因する品質関連費用および米国の金利上昇に伴う販売費を中心とした諸経費等の増加、為替変動の影響、試験研究費の増加により、前期比26.8%減の3,977億円となりました。

売上台数の推移

(単位:万台)



売上高・セグメント利益の推移

(単位:億円)

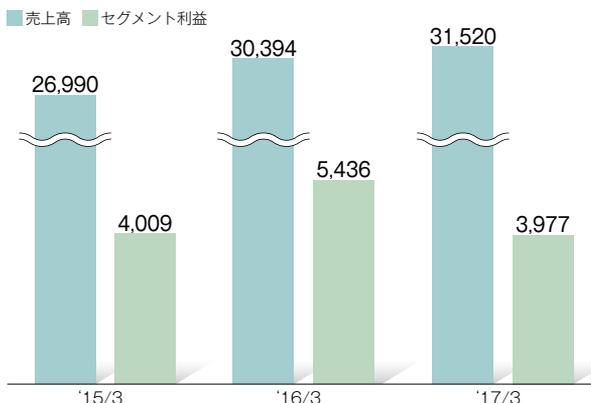




PHOTO:インプレッサ SPORT 2.0i-S EyeSight



PHOTO:アウトバック 2.5i Premium(北米仕様)

航空宇宙部門

売上高
1,388億円
 前期比 **9.2%** 減

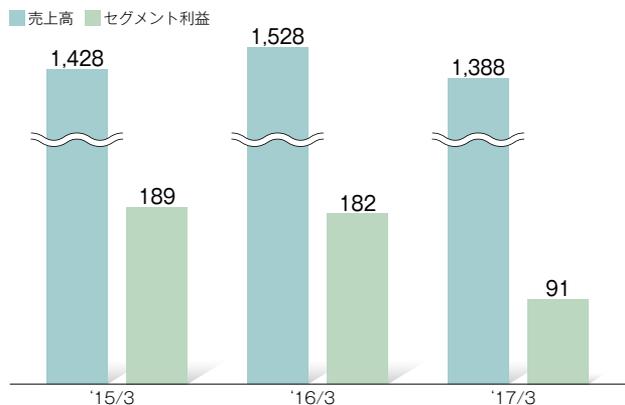


PHOTO:412EPI(発展型機(模型))

防衛省向け製品では、新多用途ヘリコプター「UH-X」の契約に基づく開発本格化により増収、民間向け製品では、為替変動の影響や「ボーイング777」の生産機数減少により減収となりました。全体の売上高は前期比9.2%減の1,388億円、セグメント利益も前期比50.0%減の91億円となりました。

売上高・セグメント利益の推移

(単位:億円)

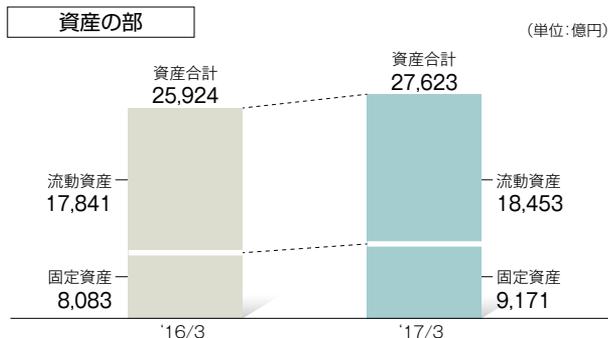


詳細な財務情報は、ホームページに掲載の
 各種IR資料をご利用ください。
<https://www.subaru.co.jp/ir/library/>



連結財務諸表

連結貸借対照表の概要

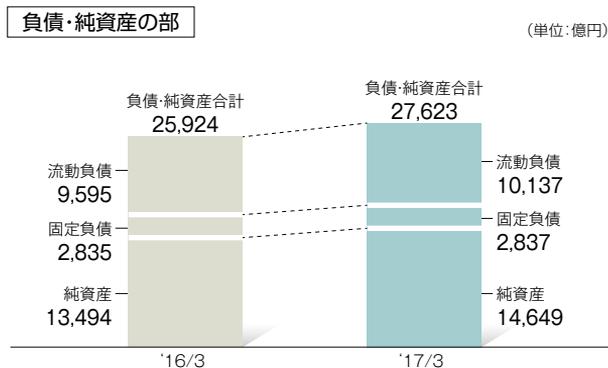


ポイント

総資産

1,699億円 増↗

現金及び預金と有価証券を合わせた手許資金の減少287億円、商品及び製品の増加133億円、短期貸付金の増加245億円、有形固定資産の増加846億円などです。



ポイント

負債

544億円 増↗

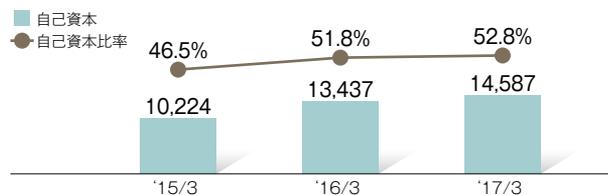
支払手形及び買掛金と電子記録債務を合わせた仕入債務の増加237億円、未払法人税等の減少864億円、未払費用の増加886億円などです。

純資産

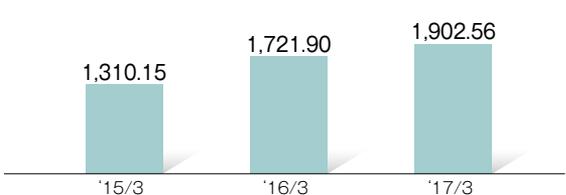
1,155億円 増↗

利益剰余金の増加1,243億円などです。

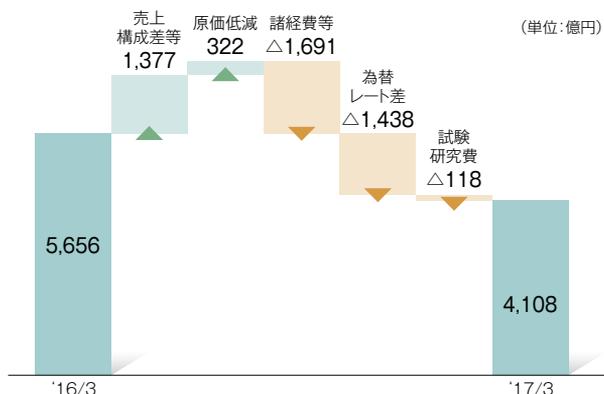
自己資本 / 自己資本比率



1株当たり純資産



営業利益増減要因



ポイント

営業利益

1,548億円 減

売上構成差等

国内 +168億円: 販売台数の増加と高収益率比率の増加などです。
海外 +971億円: 北米を中心とした販売台数の増加などです。

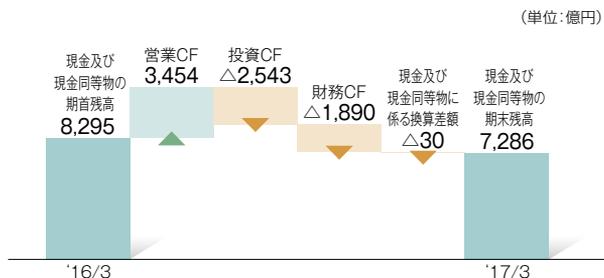
諸経費等

クレーム費 △729億円: エアバッグ関連のリコール引き当て費用などです。
販売管理費 △656億円: 米国の金利上昇によるローン、リース費用の増加などです。

為替レート差

US\$ △1,414億円: 前期121円/\$、当期108円/\$、12円/\$の円高。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要



ポイント

'17/3の現金及び現金同等物(資金)

7,286億円

営業活動CF

税金等調整前当期純利益の計上3,947億円などです。

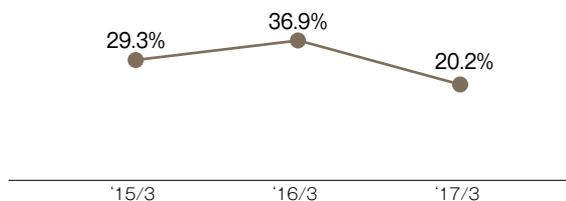
投資活動CF

固定資産の取得による支出1,624億円などです。

財務活動CF

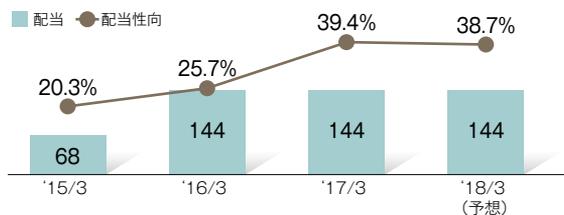
自己株式の取得による支出527億円、配当金の支払1,114億円などです。

ROE(自己資本当期純利益率)



1株当たり年間配当金/連結配当性向

(単位: 円)



特集1 | New SUBARU XV

次世代SUBARUの国内主力SUV

新型SUBARU XV好調発進！

第1弾の新型インプレッサに続き、SUBARU次世代モデルの第2弾として登場した新型SUBARU XV。4月6日の発表から約2か月で8,000台に迫る受注を獲得するなど、好調な販売スタートを切りました。

2012年にデビューした初代SUBARU XVは、独自のコンセプトが市場に受け入れられ、SUBARUブランドを牽引するモデルへと成長しました。今回“Fun Adventure”の新コンセプトのもとに登場した新型SUBARU XVも、お客様の想像を大きく上回る魅力あるクルマに仕上がっています。

**Fun Adventure**

世界中の人たちが毎日をアクティブに楽しみ、さらに冒険と感動に満ちた日々を過ごすためのパートナーのような存在。

新型SUBARU XVの開発コンセプトである“Fun Adventure”には、開発スタッフすべての想いが込められています。



次世代SUBARU SUVの強み・個性

スポカジ

街中でも映える、使いやすいSUV

SUBARU共通のデザインフィロソフィ“DYNAMIC × SOLID”を全面採用。SUVらしい力強さ、スポーティーさと先進性を融合させ、街で映えつつ、自然の中でも似合うデザインに。さらに広い視界と取り回しの良さ、乗り降りしやすい実用性を備えた都会的でクールな「スポカジスタイル[※]」を実現しました。

※プロの使用にも耐えうる本格的な性能・品質を持ちながら、街でさりげなくセンス良く使いこなすスタイル。



スポーティネスや先進性ととも、タフギアとしての堅牢さや信頼感を表現したエクステリア



大胆さと精緻さの中に遊び心や愉しさを加味したインテリア



日常の買い物からアクティブに過ごす週末まで、多彩なライフスタイルに応えるカーゴルーム

クロスオーバーSUV

行動範囲を広げる、ツーリングSUV

歩行者保護エアバッグと運転支援システム「アイサイト (ver.3)」を全車標準装備。次世代プラットフォーム「SUBARU GLOBAL PLATFORM」を採用し、スポーティーセダンを超える操縦安定性と様々なシーンでの高い快適性を実現しました。さらにAWD制御システム「X-MODE」や200mmの最低地上高により、本格SUV並みの悪路走破性を発揮します。



本格SUVとして、雪道をはじめ、未舗装路などのアウトドアシーンでも余裕の走破性を発揮



次世代プラットフォーム“SUBARU GLOBAL PLATFORM”を採用し、安全性能と走行性能が飛躍的に進化



走破性と安心感を高めるAWD制御システム、X-MODEを採用

SUBARUの提供する「安心と愉しさ」

～SUBARUのSUVは、愉しさのフィールドをもっともっと広げてくれる～

次世代SUBARUの主力SUVとして登場した新型SUBARU XV。コンパクトSUV、ミドルサイズSUV双方のメリットを融合させ、国内市場に最適な唯一無二のクルマを目指します。すでに“安心”を証明するものとして、第三者の公的機関より高い評価を獲得しています。

世界トップレベルの衝突安全性

JNCAP衝突安全性能評価で過去最高の得点を獲得

国土交通省と独立行政法人 自動車事故対策機構 (NASVA) 主催の2016年度自動車アセスメント (JNCAP) において、新型SUBARU XV、インプレッサSPORT/G4が過去最高の得点を獲得し、2016年度「衝突安全性能評価大賞」を受賞しました。



特集2 | アイサイト・ツーリングアシスト

疲れを減らし、愉しさを深める新機能

アイサイト・ツーリングアシスト

「安心と愉しさ」を提供するブランドとして、No.1を目指す”。新中期経営ビジョン『際立とう2020』でも掲げている「SUBARUブランドを磨く」ために、SUBARUはさらなるブランド価値の向上を図っています。そして今回の新型レヴォーグ、WRX S4において、高速道路の幅広い車速域でアクセル、ブレーキ、ステアリング操作をアシストする「アイサイト・ツーリングアシスト」を全車に搭載。運転負荷を大幅に軽減するという制御の正確さはもちろん、人の感覚も徹底的に考え抜いた開発を行い、SUBARUらしい新次元のアシストを実現しています。



アイサイトは、次のステージへ

高速道路での疲れやストレスを大幅に軽減する新機能「ツーリングアシスト」を開発。万一の自動ブレーキだけでなく、また、単に移動するだけの自動運転でもなく、あらゆるシーンで総合的にドライバーをアシストすることで危険の目を摘んでいく。“世の中から事故をなくす”という究極の目標に向かって、アイサイトはたゆまぬ進化を続けています。

アイサイト コアテクノロジー

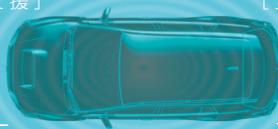
アイサイトセーフティプラス

ぶつからないために
[衝突回避の支援]

ヒヤリを減らすために
[安全運転の支援]

疲れなくするために
[運転負荷の軽減]

死角を減らすために
[視界の拡張]



ツーリング
アシストの
メリット

疲れにくい

高速道路の幅広い車速域で、運転の主要な操作を自動でアシスト。さまざまなシーンで疲れやストレスを大幅に軽減します。

安心して使える

機械的でごちない動きや急な制御が少なく、人の感覚に近い自然で滑らかな制御を実現。

人生にもっと愉しさを

移動がラクだから目的地で思い切り遊べる。次はもっと遠くまで行きたい。乗る人にそう思っていたいただける性能を目指しました。



ツーリングアシストの機能と特長



0km/h～約120km/hの幅広い車速域で、アクセル、ブレーキ、ステアリング操作を自動でアシスト。渋滞から高速巡航まで、さまざまなシーンで運転負荷を大幅に軽減します。

0km/h 渋滞 高速巡航 約120km/h

渋滞時など極低速域でも制御	区画線と先行車の両方を認識	区画線の情報だけでも制御
<p>渋滞時など、車間距離が狭く区画線が見えない状況でも、先行車の情報のみで操舵を支援。</p>	<p>区画線と先行車の情報を用いるため、先行車がふらついていたり区画線が擦れているような状況でも、安定した制御を実現。</p>	<p>高速巡航時など先行車がない場合は、区画線の情報を用いて操舵を支援。</p>
		
<p>認識対象【先行車】</p>	<p>認識対象【区画線+先行車】</p>	<p>認識対象【区画線】</p>

活動レポート

環境省「エコアクション21バリューチェーンモデル事業」を導入 ～一般財団法人 持続性推進機構と普及促進に係る協定書を締結～

当社は、環境省が推進する環境マネジメントシステム「エコアクション21」*1を、企業価値向上に向けたマネジメントツールとして、当社の関連企業・お取引先(以下 SUBARUグループ)へ展開し、国内で初めて、「エコアクション21バリューチェーンモデル事業」を導入することを決定しました。

今回の導入にあたり、一般財団法人 持続性推進機構**2(東京渋谷区、以下 IPSuS)と、「エコアクション21」の普及促進に係る協定書を締結し、IPSuSからの指導・支援を受けながら推進を図っていきます。

「エコアクション21」は、事業者の環境取り組みを促進するとともに、その取り組みを効果的・効率的に実施するため、環境省が策定したガイドラインに基づき、認証・登録する制度です。

国内スバル販売特約店では、2011年3月にメーカー系自動車販売店として初めて、全特約店・全拠点で「エコアクション21」の認証取得を完了し、その運用を促進しています。そのノウハウを活かし更に発展させるため、「エコアクション21」をSUBARUグループへ展開し、より事業に即した実効性の高い環境経営を実現していきます。

当社は、地球環境問題を経営課題の一つであると認識し、持続的な社会の実現に向け、社会的責任を全うする企業でありたいと考えています。今後も、「存在感と魅力ある企業」を目指すという経営理念のもと、「安心と愉しさ」という価値を提供しながら、より良い社会・環境づくりに貢献し、持続可能な社会の実現を目指していきます。

01



*1 「エコアクション21」は環境省がガイドラインを策定し、認証登録業務を(一財)持続性推進機構が実施
全国7,700以上の事業者が、「エコアクション21」を認証登録している(2016年10月末現在)

*2 産学官民の様々な関係者と連携・協働し、持続可能な社会づくりに向けた環境認証事業と環境人材育成を進めるための組織



新型インプレッサ SPORT/G4が 「2016-2017日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞



新型「インプレッサ SPORT/G4」が、日本カー・オブ・ザ・イヤー実行委員会が主催する「2016-2017日本カー・オブ・ザ・イヤー」を受賞しました。SUBARUの受賞は2003年のレガシィ以来13年ぶり2度目となります。

新型「インプレッサ SPORT/G4」は、お客様に最高の「安心と愉しさ」を提供することを目指し、次世代プラットフォーム“SUBARU GLOBAL PLATFORM”（スバルグローバルプラットフォーム）をはじめとした様々な新技術を投入。国産初となる歩行者保護エアバッグを標準装備し、「総合安全」と「動的質感・静的質感」の大幅向上を実現したモデルです。

株主様 イベントの ご案内

航空宇宙カンパニー半田工場ご視察会

当社民間向け主力製品であります中央翼の製造工場をご視察いただけます。

日時 2017年9月7日(木) 13:30～16:30

場所 航空宇宙カンパニー半田工場
愛知県半田市潮干町1-27

集合場所 名古屋鉄道(名鉄)河和線 知多半田駅

集合場所より送迎バスをご用意いたします。また、集合場所までの交通費は、株主様のご負担とさせていただきますので、ご了承ください。

募集人数 50名程度 (ご同伴者様含む)

ご希望者が多数の場合は抽選とさせていただきます。また抽選結果は、株主様ご本人に直接ご案内いたします。

対象者 2017年3月31日現在、
当社株式を100株以上ご所有の株主様
(ご同伴者様1名まで可)

※ご同伴者様は小学生以上とさせていただきます。

ご応募方法 下記のホームページまたはおハガキで
ご応募ください。

締め切り ホームページ：2017年7月18日24時まで
おハガキ：2017年7月18日当日消印有効

●ホームページよりご応募

https://www.subaru.co.jp/ir/share_info/tour_applicantion.html



SUBARU 株主様イベント 検索

●おハガキでのご応募・お問い合わせ先

〒150-8554 東京都渋谷区恵比寿一丁目20番8号
株式会社SUBARU 経営管理本部
総務部 SR室「株主様イベント」係
TEL 03-6447-8825

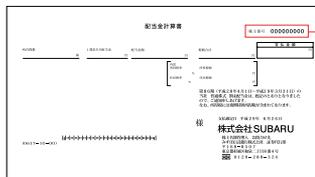
個人情報の取り扱いについて

今回ご応募いただきました株主様およびご同伴者様の個人情報は
本ご視察会の実施以外の目的では一切使用いたしません。

【ご注意】ご視察コースは階段などを含め、約1時間の歩行となります。



PHOTO:(上)航空宇宙カンパニー半田工場
(下)ボーイング787中央翼



9桁の番号(株主番号)掲載箇所
本紙と一緒に同封している「配当金
計算書」に掲載の株主番号をご記入
ください。

株主様イベント 応募用紙



■ 株主番号

■ ご応募のイベント 航空宇宙カンパニー 半田工場ご視察会

■ ご本人様

フリガナ
お名前

〒

ご住所

年齢

性別 男・女

電話番号

■ ご同伴者様(1名まで)

フリガナ
お名前

年齢

性別 男・女

株主様とのご関係

用紙にご記入のうえ、ハガキに貼り付けてご応募ください。

会社概要

会社概要

社名	株式会社SUBARU (英名:SUBARU CORPORATION)	従業員数	連結 32,599名 単独 14,708名 (2017年3月31日現在)
設立	1953年(昭和28年)7月15日	主要製品	普通・小型自動車、航空機、汎用エンジン
資本金	153,795百万円	本社	〒150-8554 東京都渋谷区恵比寿一丁目20番8号 03-6447-8000(代表)

主な事業所

部門	名称	所在地	主な事業
自動車事業部門	群馬製作所 本工場	群馬県太田市	自動車の開発・生産
	矢島工場	群馬県太田市	自動車の生産
	大泉工場	群馬県邑楽郡大泉町	自動車用エンジン・トランスミッションの生産
	東京事業所	東京都三鷹市	自動車用エンジン・トランスミッションの開発
	スバル研究実験センター	栃木県佐野市、北海道中川郡美深町	自動車の開発
	埼玉製作所	埼玉県北本市	汎用エンジンの生産
航空宇宙カンパニー	宇都宮製作所	栃木県宇都宮市	航空機の開発・生産
	半田工場	愛知県半田市	航空機を生産
	半田西工場	愛知県半田市	航空機を生産

取締役・監査役

取締役会長	近藤 潤	取締役専務執行役員	岡田 稔明	常勤監査役	馬淵 晃
代表取締役社長	吉永 泰之	取締役常務執行役員	加藤 洋一	常勤監査役	灰本 周三
代表取締役専務執行役員	日月 文志	社外取締役	駒村 義範	社外監査役	三田 慎一
取締役専務執行役員	笠井 雅博	社外取締役	青山 繁弘	社外監査役	阿部 康行

会社に関する詳しい情報は企業ホームページをご覧ください。

<https://www.subaru.co.jp/>



自動車に関する詳しい情報は商品ホームページをご覧ください。

<https://www.subaru.jp/>



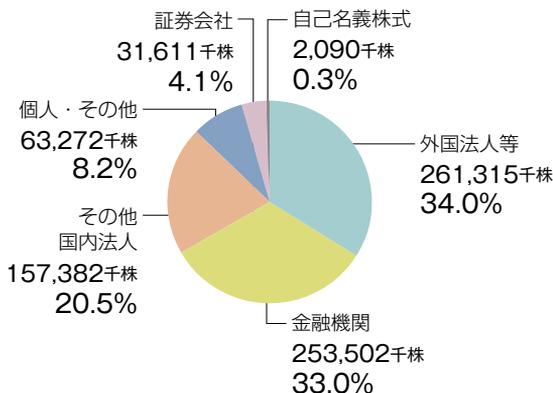
株式の状況 (2017年3月31日現在)

株式の総数

発行済株式の総数 769,175,873株
 [注] 当期中の増減 △ 13,690,000株

株主数 82,017名

所有者別状況



大株主

株主名	株式数(千株)	比率(%)
トヨタ自動車株式会社	129,000	16.82
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	50,011	6.52
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	43,621	5.69
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口5)	11,406	1.49
株式会社みずほ銀行	10,078	1.31
MIZUHO SECURITIES ASIA LIMITED-CLIENT A/C 69250601	9,902	1.29
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	9,726	1.27
富士重工業取引先持株会	9,635	1.26
日本生命保険相互会社	9,511	1.24
東京海上日動火災保険株式会社	9,265	1.21

注 比率は、自己名義株式を除いて算出しております。

株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日

配当基準日 期末配当:3月31日、中間配当:9月30日

定時株主総会 6月中

単元株式数 100株

公告方法 電子公告
 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

[公告掲載URL]
<https://www.subaru.co.jp/ir/stock/announcement.html>

証券コード 7270

株主名簿管理人および
特別口座管理機関 〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

電話お問い合わせ先 0120-288-324(フリーダイヤル)

住所変更、配当金お受け取り方法の指定・変更、単元未満株式の買取・買増

証券会社に口座を
お持ちの場合 お取引の証券会社にお申し出ください

証券会社に口座を
お持ちでない場合(特別口座) みずほ信託銀行株式会社 全国各支店、みずほ証券株式会社 本店および全国各支店にお申し出ください。

未払配当金のお支払

みずほ信託銀行株式会社にお申し出ください。0120-288-324(フリーダイヤル)

株式会社SUBARUへ

富士重工業株式会社は、2017年4月1日付で、社名を「株式会社SUBARU」
(英文表記:SUBARU CORPORATION)に変更いたしました。

社名とブランド名を統一することにより、
現在取り組んでおります“SUBARUブランドを磨く”ことをさらに加速させ、
SUBARUを自動車と航空宇宙事業における
魅力あるグローバルブランドとして成長させてまいります。



PHOTO:ボーイング787-9(ボーイング社提供) ※当社はボーイング787の中央翼を開発・製造しています。

株式会社SUBARU

〒150-8554 東京都渋谷区恵比寿一丁目20番8号

電話 03-6447-8000

[ホームページ:株主・投資家の皆様へ] <https://www.subaru.co.jp/ir/index.html>

証券コード:7270

表紙PHOTO:SUBARU XV 2.0i-S EyeSight クールグレーカーキ

